



回、三十回ぐらい勤めさせていただきました。その経験があつて、この年齢で「翁」という大役を務めさせて頂きました。「翁」は能なのですが、いわゆる神事の性質がとて強く、天下泰平や国土安穩などの祈りが込められた、とても神聖な曲です。この曲を勤める前には、別火と言って身体を清める。女の人に会つてはいけないとか、精進料理にしなければならないというような制約があります。昔ほどではないですけど、今でもそれを行い「翁」に臨みます。

能の世界では、毎年月に定例公演の初会という年始の会があります。先生から急に「来年の初会で自分が十歳をやるから、君が大夫をやりたい」と言われて、来年の初会を「翁」をさせて頂くことになりました。これも大変貴重な一生に一度の経験になると思います。

また、江戸時代に家康公から拝領し、観世家に伝わっている「萌葱地蜀江錦狩衣」という装束があり、これは家元がここぞという時に着けるものです。それほど観世家は「翁」を大切にしております。

かつて、室町幕府の三代将軍足利義満が「新熊野神社」（いまくまのじんじや）京都府京都市で観阿弥世阿弥による能楽を鑑賞したところ、いたく感動して、観阿弥世阿弥親子を手厚く保護しました。今年がその出会いがあつてから、ちょうど六五〇年にあたります。義満公と観阿弥世阿弥の親子の出会いがなかったら、能は今のようにはならなかったという節目の年でもあるのです。

越野：すこいですね。ヨーロッパや中東で平和が脅かされている時代に、平和の祈りを込めた神聖な曲が演じられる。また六五〇年という節目の翌年に、お父様と三郎太さんが「翁」を舞われる。

本当に凄い事ですね。

大前：そうですね。能楽で受け継がれて来たものは、芸の教えを超えていますね。

■能の教え

大前：観阿弥の教えを世阿弥がまとめた『風姿花伝』が、観世家には伝わっていると聞いていますか？

観世：全部ではないのですが、我が家に伝わっております。

越野：それは日本で一番古い芸能論芸術論でもあるでしょう、ある意味、人間教育論みたいなところもありますよね。

観世：はい。

大前：『風姿花伝』の中で印象に残る言葉はありますか？

観世：有名な言葉は「初心忘るべからず」ですが、私自身一番好きなのは「離見の見」という言葉です。「離れて見るの見る」と書くのですけれど、舞台では気持ちが高ぶっても、自分本位にならず、冷静に第三者の視点で自分を意識することが大切という教えです。やはりそうしないと、どんな事でも臨機応変に対応できないですし、心に余裕もできないと思うので、「離見の見」という言葉が一番好きです。

大前：なるほどね。お話を伺っていると、能は、思っている以上にライプ性が高い芸能ですね。

観世：そうですね。能の世界は専業になっていて、シテ方はシテ方で流儀があつて、ワキ方はワキ方で流儀があつて、囃子方は囃子方で流儀があつて、という様にみんな分かれていきます。「二ひつもの舞台」は一期一会で、同じ舞台はつもありません。いつもどこかが違う演じ方になっています。俯瞰的に考えていかないと対応ができない。余裕をもたなければならぬ。

越野：今回は、観世能楽堂と飛鳥山新能で演じられる訳ですが、この違いはどうお考えですか？

観世：舞台の大きさが違います。能楽は、舞台の奥行きで、場面展開とかを考えたところがあります。そういうところをどうするか？。やはり新能なので、明かりが当たる場所と当たらないところがあります。明るい場所を選ぶことで見やすくなりますし、声の大きさや聞こえ方にも影響します。細かな点も工夫していきたいです。

■能を鑑賞するポイント

越野：一般的には、能は「分りにくい」「難しい」という印象が持たれやすいですが、何か理解しやすいポイントみたいなのはありませんか？

観世：能楽を見ようとするお客様が、なぜ「難しいな。私には難解



観世三郎太
(かんぜさぶろうた)

1999年、能を大成した観阿弥・世阿弥父子の子孫である二十六世観世宗家・観世清和の嫡男として生まれる。観世流シテ方能楽師。幼少より父の稽古を受け5歳のとき、能「鞍馬天狗」で初舞台。2009年「合浦」で初シテ。「石橋」「乱」「翁」「道成寺」「安宅」などを演じ、次世代を担う能楽師の代表として国内外で活躍をする。母校の立教大学では、新才能「聖パウロの回心」を演じる。

2015年「経正」にて初面。「石橋」「乱」「翁」「道成寺」「安宅」などを勤めるなど、次世代を担う能楽師の代表として国内外で活躍する。2023年G7広島サミット「内閣総理大臣夫妻主催社交夕食会」にて、各国元首・首脳・使節団へ我が国の伝統芸能を代表し能を演ずる。



大前孝太郎
(おおまこうたろう)

東京北区観光協会会長。
1964年東京都北区生まれ。1987年慶應義塾大学経済学部を卒業。住友銀行等を経て、1998年より内閣官房特別調査員（経済戦略会議担当他）。2001年より内閣府参事官補佐、企画官、内閣府政策企画調査官等を経て、2006年慶應義塾大学総合政策学部准教授。2009年城北信用金庫 常務理事。